

社会・環境報告書



2016

鍋林株式会社
Nabelin Co.,Ltd.
www.nabelin.co.jp

近頃よく「グローバル」という言葉を耳にします。それは「グローバル（地球規模）」と「ローカル（地域）」を組み合わせた造語で、地球規模の視野でとらえ、地域視点で行動するという考えです。

弊社は創立100周年を迎えた25年前より、その基本方針として「国境を越えた地域社会の繁栄のために積極的な役割を果たし、人々のしあわせを創造していく」ことを掲げてまいりました。「国境を越えた地域社会」という考えは、まさしく「グローバル」を指すと言えるでしょう。地域社会での身近な行動が地球規模の総体的な活動にそのまま繋がっていくのだという、繊細な視点と包括的な視野を併せ持って経済活動や環境活動に取り組んでいくことが肝要であると考えます。

集中豪雨や豪雪、最高気温の更新など、近年多発する異常気象とも言える現象は、地球温暖化と密接な関係があると言われます。地球温暖化は人間活動によるところが大だとされる中、環境活動の必要性は高まるばかりです。そうした世界規模での環境問題も、個人個人が未来を見据え、そのために何をすべきかという問題意識を持ち、真剣に日々取り組んでいくことが欠かせません。

unnecessary 電灯を消したり、電気機器のスイッチをオフにする、紙の使用量を減らす、車のアイドリングストップやエコ運転をする、そして公共交通機関を利用した通勤車両ノーマイカーデーを毎週実施するなど、日常の中で一人ひとりが取り組む小さな活動が、ひいては地球規模の持続可能な環境保全に繋がるものと考えます。

また同時に、企業の事業活動としても、環境に配慮した商品を積極的に取り上げ、それをお得意先にご提案し、ご採用いただくことによって、環境保全に資しながら社会全体に環境意識を広めていく一助となることを目指してまいります。

本報告書に、2015年度の鍋林株式会社の活動の概要をまとめさせていただきました。ご覧いただき、これからも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 島 宏幸

事業概要

名称及び代表者	鍋林株式会社 代表取締役社長 島 宏幸
主な事業内容	医療用医薬品、医療・介護機器、基礎化学品、医薬原料、半導体薬品、電子材料、樹脂、設備機器、食品原材料、食品包装資材、OA機器コンピュータの販売、ウインドウフィルムの施工、及び取り扱い品目の輸出入など。
事業規模 (2016年4月末現在)	資本金 1億94百万円 年商 754億88百万円 従業員数 517名

拠 点

本 店	長野県松本市中央3-2-27	新潟営業所	新潟県新潟市東区逢谷内字居前339-1
松本本社・ 松本営業所	長野県松本市双葉8-10	中越配送センター	新潟県燕市小関字野中1041
あづみ野配送センター	長野県北安曇郡松川村南神戸4363-32	上越営業所	新潟県上越市大字福橋字前田744-1
東京本社・ 東京営業所	東京都中央区日本橋室町3-3-3(CMビル)	富山営業所	富山県魚津市大海寺新329
長野営業所	長野県長野市アークス1-14	関東営業所	埼玉県鶴ヶ島市柳戸町11-7
松代配送センター	長野県長野市松代町大字豊栄字宮崎6331	山形営業所	山形県東根市大字郡山字四角石89
東信営業所	長野県小諸市大字西原字金山646-10	酒田営業所	山形県酒田市広栄町1-1-4
岡谷営業所	長野県岡谷市長地小萩1-13-11	三重営業所	三重県四日市市富州原町11-12
伊那営業所	長野県上伊那郡南箕輪村9033	大阪営業所	大阪府大阪市中央区道修町1-4-8 道修町ビル 2階
飯田営業所	長野県飯田市下殿岡263-1	福岡営業所	福岡県博多区博多駅南3-2-3アイビービーフェリクス博多802号室
甲府営業所	山梨県甲府市上阿原町240	台湾支店	台湾・台北市南京東路三段346号9F 913号室
北関東営業所	群馬県佐波郡玉村町大字板井870	フィリピン駐在員 事務所	Unit 2F-E, 2nd Floor Raha Sulayman Building 108 Benavidez Street, Legaspi Village, Makati City, Philippine.
宇都宮営業所	栃木県宇都宮市東宿郷 3-2-18 高智穂ビル5階A		(福岡営業所は2016年11月1日に開所したもので、この報告書には含まれません)

環 境 方 針

【理念】 鍋林株式会社は環境保全・社会貢献活動に取り組み、地域社会から受け入れられ、良き隣人として共栄している会社になることを目指す。

- 【方針】
- 1, 当社は、地球環境及び地域社会に貢献できる環境マネジメントシステムを構築し、環境汚染の予防と継続的改善への取り組みをする。
 - 2, 法規制及び当社の同意するその他の要求事項を順守する。
 - 3, 当社は、本環境方針に沿って環境目的及び目標を設定し、必要により、見直しをする。
 - 4, 当社は、次の課題を環境目的とする。
 - ① 環境貢献商品の拡大
 - ② 環境負荷の抑制と管理
 - ③ 地域環境保全への奉仕活動

この環境方針は、構成員に周知し、また求めに応じ社外へも公表する。

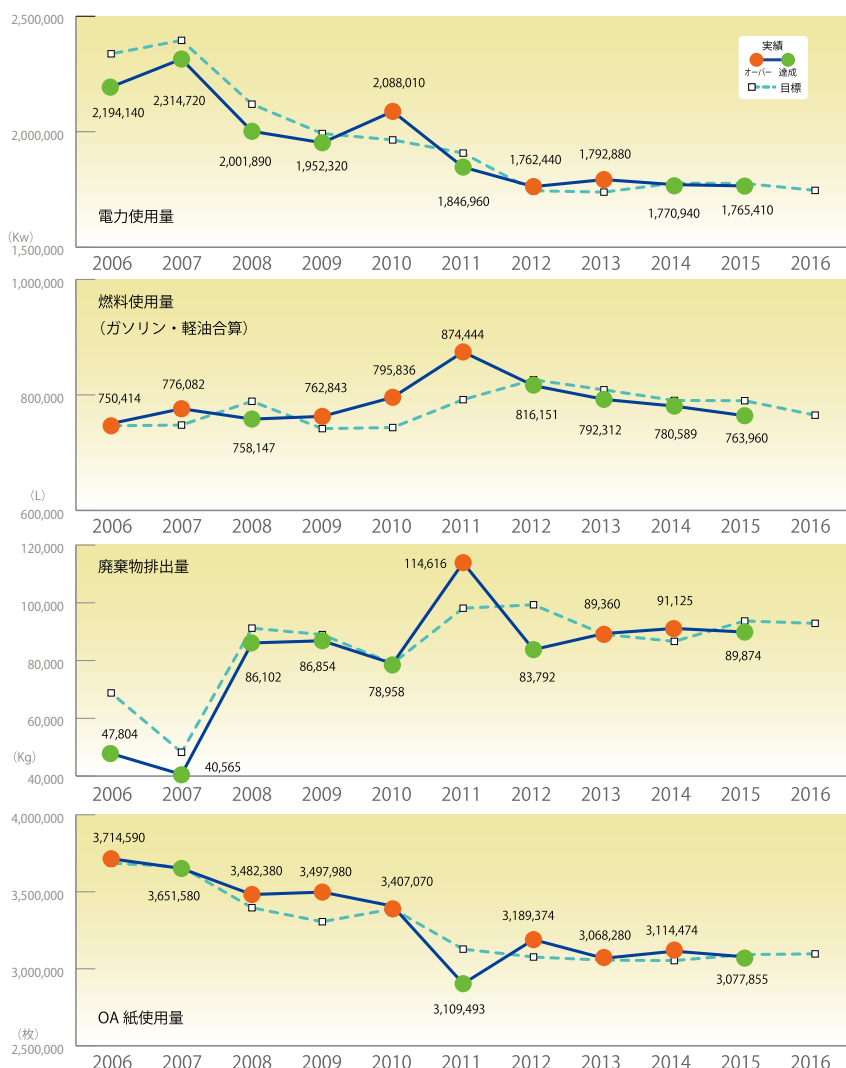
環 境 目 的

1. エネルギー使用の削減
環境負荷抑制項目を設定。
経済活動に準じた原単価式に
管理し、発生を抑制する。
ノーカーデー参加者を拡大する。
2. 紙類の使用量削減
3. 廃棄物の分別廃棄と排出量削減
4. 地域環境保全への奉仕活動
5. 環境関連活動の拡大

直近5年の環境実績と目標判定

	2011年度 実績	2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 目標	2015年度 実績	対目標	判定
電力使用量	1,846,948kw	1,762,436kw	1,792,883kw	1,770,946kw	1,776,254kw	1,765,411kw	99.4%	○
都市ガス使用量	10,865m ³	10,709m ³	10,116m ³	10,369m ³	10,188m ³	9,031m ³	88.6%	○
灯油使用量	18,316L	16,473L	128,475L	13,989L	9,936L	7,514L	75.6%	○
社有車両ガソリン使用量	424,086L	466,747L	476,222L	474,264L	479,669L	480,481L	100.2%	×
社有車両軽油使用量	286,348L	252,230L	223,250L	210,908L	211,712L	196,850L	93.0%	○
契約車両燃料使用量	164,010L	97,174L	92,840L	95,417L	98,578L	86,629L	87.9%	○
車両燃料使用合計	874,444L	816,151L	792,312L	780,589L	789,959L	763,960L	96.7%	○
OA用紙使用量	3,109,493枚	3,189,374枚	3,068,280枚	3,114,474枚	3,092,400枚	3,077,855枚	99.5%	○
廃棄物排出量	114,616kg	83,792kg	89,360kg	91,125kg	93,707kg	89,874kg	95.9%	○

10年間の目標・実績の推移



電力、OA紙は着実な削減傾向を示し、燃料についてはほぼ横這い、廃棄物に関してはわずかに上昇傾向にあります。

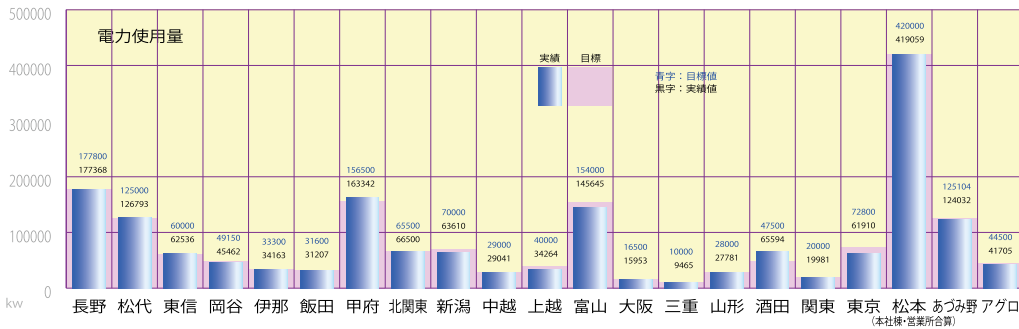
いずれも2011年が特異点となっているのは、この年発生した東日本大震災と、松本営業所・物流センターの改築という大きなイベントがあったためと思われます。

また、2012年度まで、総体としてのCo2排出量削減を目標としていたものを、翌年からはそれぞれの管理と抑制を目標としたことから、安定した数値となりながらも、削減の幅は抑えられる形となりました。

2015年度エリア別実績

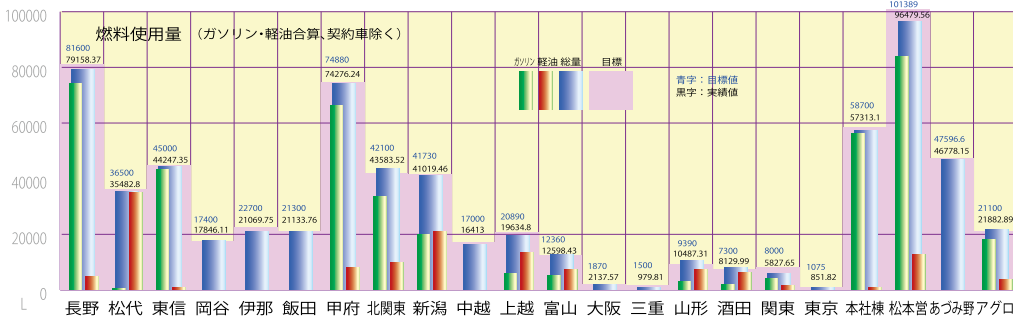
電力使用量

目標値は、前年実績をわずかに上回る数値を立てましたが、結果的には目標値、前年実績ともに下回るものとなりました。酒田での上昇が突出していますが、これは恒温庫の温度調節機能が故障したためで、原因究明と対策の結果、現在は正常値に戻りました。



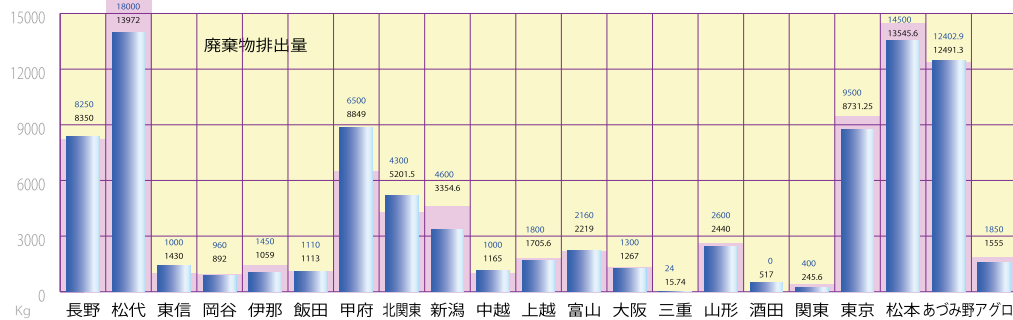
燃料使用量

ディーゼル車からガソリン車への切替えが進み、軽油使用量が大幅に減りました。ガソリンについてもハイブリット車の導入などで、目標値の僅かなオーバーで済んでいます。着実な削減が継続していて、次年度の目標値も低めに設定し、達成に向け全社をあげて取り組みます。



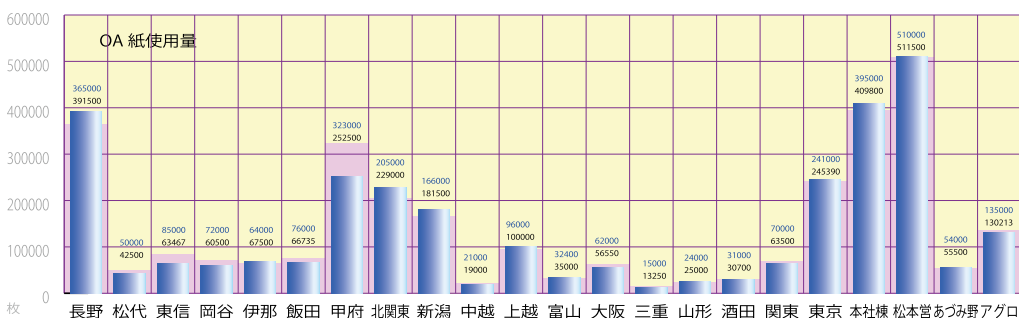
廃棄物排出量

梱包材などの産業廃棄物(プラスチック類)と事業系一般廃棄物の合算です。前者は業務に伴い発生するためコントロールが難しいものですが、一般廃棄物は分別再利用によって、まだまだ削減の余地があるものです。3R(リユース・リデュース・リサイクル)を一層進めてまいります。



OA紙使用量

専用の伝票をプリント出力紙に変更する(大幅にコストダウンできる)、配送品に貼るラベルとして出力するなど、OA紙の使用用途が拡大していますが、総使用量は漸減しています。社内連絡に関しては、ITを活用してOA紙への印刷を極力減らし、さらなる削減をめざします。



環境関連商品の取扱い

メーカーのたゆまざる努力によって、新しく開発される製品は、かつてのものに比べ格段に環境に対する負荷を減らしています。当社は卸売業として、そうした環境性能の高い製品を市場に供給することによって、社会全体の環境改善に寄与したいと考えています。

また、特に環境に対して良い効果をもたらすものを環境関連商品と位置づけ、各事業部主導のもと、各エリアで品目を選定、売上目標を掲げ推進しています。

【取り上げた商品】

凝集剤、吸着マット、非塩素系加工油・切削油、鉛フリー半田、無リン洗浄剤、フィルター、環境測定機器、シリコン、デジタルX線画像診断システム、環境配慮型複合機、天敵農薬等

また、リターナブル容器への変更や、1 tonコンテナ利用・ローリー化等の集約による輸送マイレージ削減など、容器による環境負荷の低減も目標としています。

社会貢献活動

◎ 清掃活動

各事業所ごとに年間計画を定め、清掃活動を実施しております。地域社会への貢献の第一歩として、会社の周りの道路・歩道等の清掃を行なっています。

鍋林の関連会社で構成する「かたばみ会」では、年4回「かたばみ会一斉清掃」と題し、各社全事業所で内外の清掃を実施しました。



◎ 献血運動

松本本社では、松本赤十字血液センターの献血車を社内に招き、献血を行なっています。例年、3月と10月の2回実施し、多くの人が献血できるよう各職場で協力しあっています。



◎ 募金運動

薬物乱用を防止する「ダメ。ゼッタイ。国連支援募金」、「NHK海外たすけあい義援金」への募金活動を行なっています。

◎ 通勤車両ノーマイカーデー

全社で毎週1日ノーマイカーデーを設定し、通勤にマイカーを使わず、公共機関を利用するようにしています。



◎ 地域貢献

ご近所の皆様にお役に立てるよう、営業時間外に松本本社駐車場を行事等にご利用いただいております。夏休みの早朝ラジオ体操やリサイクル品の回収、秋の防災訓練などにお使いいただきました。

また、地域振興につながる行事や催事に積極的に参画することで、文化活動の支援を行うと共に、環境に関わる各種団体に加入し、それらの活動を通じて社会貢献を行なっています。

【協賛した主なイベント】

- ◎2015 セイジ・オザワ 松本フェスティバル
- ◎第12回信州・松本そば祭り
- ◎第41回夏まつり松本ぼんぼん
- ◎ツール・ド・美ヶ原高原自転車レース大会2015
- ◎モビリティウィーク&松本カーフリーデー2015

環境教育

当社で働く、また当社のために働くすべての環境に影響する活動に従事する人々に対し、教育訓練の必要性を明確にし、その手順を「教育研修要綱」に定め、年間計画を策定して環境教育を実施しています。



① 基礎教育(全構成員対象)

- 当社の環境方針、環境目的・目標及び環境マネジメントシステムの要求事項について
- 地球環境問題について

② 専門教育(該当者)

- 商品保管、配送、フォークリフト運転教育
- 環境関連商品の知識習得
- 関連法規教育

③ 緊急事態対応訓練

- 危機管理マニュアル教育
- 消火、避難、救出、救護、緊急連絡訓練
- 普通救命講習

本年度環境活動を振り返り

本年2月、お取引先のある会社において、環境教育の講義として弊社の環境への取り組みをプレゼンテーションいたしました。環境活動に取り組むようになった経緯と活動内容を、CSRの観点から述べさせていただきました。参考となったかは心許ないところではありますが、弊社のこれまでの活動を振り返り、客観視することが出来た良い機会となりました。今後も、世間に対して恥ずかしくない活動を継続していかねばと、禪を締め直した次第です。

昨年末のCOP21において、京都議定書に代わる新たな温暖化防止の枠組みとして「パリ協定」が締結されました。開発途上国を含む世界196カ国の国と地域が合意する画期的なものであり、その目標も高く設定されました。この協定により、低炭素社会の構築が人類の共通の目標となり、CO2を出さないことを価値とする新規ビジネスの推進やエネルギーの転換が図られることでしょう。

地球に負担をかけずにいかに世界が発展するか。単純に削減を目指すのではなく、その達成のために有効な仕組みをどのように組み立てていくかが問われています。弊社の企業活動もそうした視点に立って、環境コンシャスなものにアジャストしていきます。

2015年度の環境活動は、管理項目のほぼ全てで目標をクリアするものとなりましたが、パリ協定の削減目標を考えるに、より一層野心的な目標が必要となるでしょう。この人類共通の目標を次年度よりの活動計画に反映させ、全社をあげて取り組んでまいります。

外部利害関係者及び行政機関等からの、環境に関する苦情、依頼、問い合わせを常時受け付けています。それらに迅速に回答、対応すると共に、その結果を「環境に関する外部との情報記録表」として記録しています。

当「社会・環境報告書」は当社ホームページ上でも公開し、誰でもお読みいただけるようにすることで、一つでも多くのご意見を頂戴し、今後の環境活動に役立ていこうと考えています。

鍋林株式会社/社会・環境活動/環境報告書
<http://www.nabelin.co.jp/eco/index.html>

皆様からの忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。



環境管理責任者
常務取締役
小口 喜也

ISO14001 認証取得

初回認証 2001年3月27日
登録番号 E00-188
認証範囲 松本本社、東京本社、
日本国内全営業所(宇都宮営業所除く)、
全配送センター、
当社取扱い販売分野に関連した
業務全般及び本社・本部スタッフ業務
適用規格 JIS Q 14001:2004 (ISO 14001:2004)



社会・環境報告書2016

対象期間 平成27年5月～平成28年4月
発行日 平成28年11月16日
編集・発行 銅林株式会社 総務グループ
長野県松本市双葉8番10号
TEL 0263 - 27 - 6545
FAX 0263 - 27 - 0405
発行責任者 環境ISO主管部門
総務グループ長 大野 嘉巳